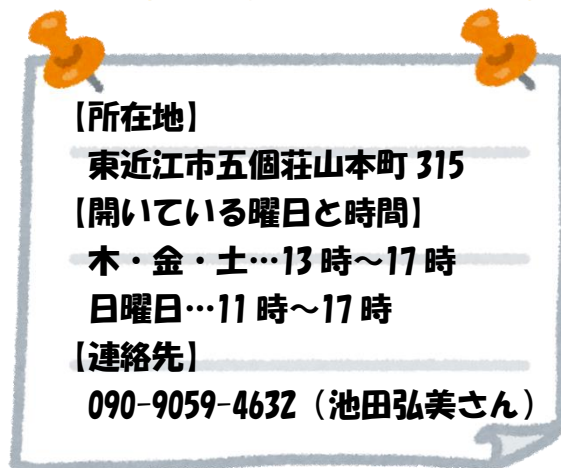




星の子カフェ（五個荘山本町）



星の子カフェの玄関前の駐車場横の猫の絵が描いてある看板が目印。

< 思い >

2023(令和5)年5月5日の“子どもの日”にオープンした。
店長の池田弘美さんは高校の元英語教師で、地元自治会・山本町福祉委員としても活躍している。
コロナ禍もあり、2021(令和3)年の夏に、「誰もが気兼ねなく来れる場所を作りたい」と思い立ち、ご両親が住んでおられた築44年の家をカフェに改装した。
改装には、以前から池田さんと繋がりのある得意技をもった人たちが協力を申し出た。
なぜ「星の子カフェ」か。
命名の由来を「私たちはみんな“星の子”だからと池田さんは話す。



池田さんの三女が点描で描いた鯨の絵のデータを拡大して、ふすまを張り替えた。

「星の子」に込めた思い。それは、宇宙の奇跡で地球という惑星が出来て、その星にさらに奇跡が重なり生物が誕生。その生物が進化してヒトが誕生し、そして今、私達が生きている。人間の祖先は共通で、99%同じ遺伝子を持っていると言われている。

だからみんな「星の子」。この地球（ほし）を大切にしないといけない。奇跡が重なり生まれた「いのち」を大切にしないといけないという思いである。

そして、池田さんは「だれかれ関係なく一緒に気兼ねなく、ゆっくりと過ごせる場所を作りたい」と話す。

<集いいね！>

その言葉通り、私たちが訪れた日にも、ベビーカーを押して子どもと一緒にやってきたお母さん、ご近所の方、グループで予約されていた方、「先生に会いに来た」という男性などだれかれとなく集い、賑わっていた。

コーヒーのメニューは、エチオピア、東ティモール、グアテマラ、インドネシア、トラジャの4種類で、紅茶はマルコポーロ。いずれも500円。自家製キャロットケーキと黒糖タルトタタン、オレンジロール、それと星の子プリンがある。日によってはピザも振舞われる。コーヒー豆は金堂町の「焙煎処珈悦」の豆をメインに使っているとのこと。

注文を受けてから、池田さんが丁寧に淹れたコーヒーとお手製のケーキで話が弾む。そして、美しい庭を眺めながらほっこりとした時間が流れる。

二胡の演奏やチェンバロコンサートなどのお茶付きミニコンサートも開催するときもある。

そんな五個荘の新たな集いの場「星の子カフェ」である。



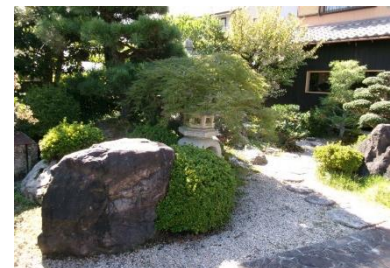
カフェ店内。棚に並んだ好みのカップを選ぶ。



コーヒーを淹れる池田さん



コーヒーとキャロットケーキ



カフェ敷地内の庭園

<VOICE—訪問した委員から>

- ★カフェに入るとすぐに、襖4枚分の大鯨と縁側の横長方形の額縁窓にピッタリとはまった庭園に目を奪われました。落ち着く空間でしゃべりやすく、集える場所がもっと増えるといいですね。店主こだわりのコーヒーとケーキが美味しかったことは言うまでもありません。
- ★星の子カフェ。民家を改装した落ちついた佇まい。店内はレトロな雰囲気でもっとも暖かな空間。大きな窓から見えるお庭も綺麗に手入れされていて、ほっこりした気分になります。
- ★平日の日中にお邪魔したのですが、既に地元の方が何名かお越しで、店主さんと一緒に楽しいおしゃべり。笑い声が響いていました。気楽に足を運べる場。こんな素敵な場が身近にあることで、日常に彩りが添えられます。